

教育センターだより

令和元年度 第3号

黒部市教育センター

「チーム学校」としての教育改善を願って

教育長職務代理人 前田 潤



「何を言うとんがよ、そんな事は無理。だいたい教科部会で話していないし、今からでは間に合わない。」と言って先輩教諭は背中を向けました。これは、ある県立学校の職員室での出来事です。教師歴3年目の若手教諭が先輩の教諭に、教科の新しい試みを提案した時、一瞬にして却下された場面です。しかし、若手教諭は、次年度に、仲間の教諭や先輩教諭の協力を得て、その新たな提案を、この県立学校で初めて実現させました。

吝(りん)という言葉があります。物惜しみする、けち、という意味です。私はこの言葉を、失敗をそのままにして改善する努力を惜しむこと、また、そのような人という意味に理解しています。物事がうまくいかない事や失敗することは、多々あります。その時、失敗をそのままにして、物事がうまく運ばなかった原因を追究せず、改善策を講じない人は、吝です。教師歴3年目の若手教諭は、失敗を反省し、地道に仲間を集め話合いを通して理解を求め、当初の目標を達成しました。目標は、実施することだけではなく、それを継続して、生徒にとってより良い教科指導に改善していくことが大切です。一方、職員室で即座に提案を却下した先輩教諭には、面倒な事には巻き込まれたくないという態度がありました。労力を惜しむ感情が表に出ていました。吝です。先輩教諭には、若手教諭の思い描いている目標の達成に向けて、欠けているもの、必要な手立てや道筋を示してあげてほしかったと思います。

若手教諭の中には、理想に燃えて自分が考える問題を表明し、性急に物事を達成しようとする姿勢が見受けられる場合があります。経験豊富な先輩教諭から見ると、その試みの結果が見えてしまい、危なっかしいと感じられることもあるでしょう。しかし、物事に取り組み、実践してみない事には、若手教諭の成長はありません。大きな失敗をしないようにサポートしながら、若手教諭の挑戦を見守るのも、先輩教諭の役割であると考えます。

働き方改革が問題となって久しく、長時間勤務や仕事内容の改善がすすめられてきました。確かに、勤務時間の長さや仕事の多さは、働き方改革の中心的な課題です。ただ一方で、教育現場における教育改善に向けての意欲や遣り甲斐も大切にしなければ、働き方改革は意味をなさなくなります。そのためにも、先輩教諭の経験を生かし、若手教諭の意欲を大切にしながら、「チーム学校」としての教育改善に向けた取組が大切なのではないのでしょうか。そして、その実践が若手教諭の成長にもつながるものと考えます。

黒部市の学校教育が、これまでのように子どもたちを大切に、一人一人の教師の力が発揮され、それが「チーム学校」として、成果を挙げることを期待しております。

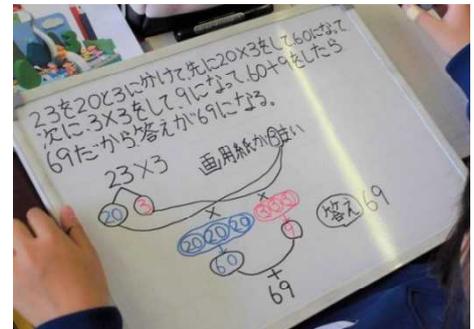
自分の考えを表現し、互いに関わり合いながら学びを深める授業づくり
—算数科を通して—

黒部市立村椿小学校

1 思考力・判断力・表現力の育成

(1) 発表ボードの活用

児童が課題に対する自分の考えを分かりやすく説明したり、聞き手を意識して考えを最後まではっきりと伝えたりすることができるようにするため、全学年において発表ボードを活用した。課題に対する自分の考えをノートにまとめた後、それを友達に伝えることを目的として、発表ボードに表現するようにした。図や式、言葉等を用い、赤や青の色も効果的に使いながら考えを分かりやすくまとめ、それを基に発表したり、互いの考えを理解し合ったりして、関わり合いながら話し合う姿が見られるようになってきた。



【考えをまとめた発表ボード(3年)】

(2) ハンドサインを生かした話し合い



【各教室に掲示してあるハンドサイン】

自他の考えを比較しながら聞き、互いに関わり合いながら話し合いができるようにするために、ハンドサインを活用した。賛成や同じ考えということ表現する「いいね」のハンドサインを新たに加えた。発言した児童にとっては、友達から認められることで、自信をもつことにつながった。また、発言するための挙手だけでなく、友達の考えに対する自分の立場を表すサインとしても使うことができた。教師はハンドサインを見て意図的に指名することで、話し合いの流れをつくったり、考えを比較検討させたりしながら、共通点や相違点に気付かせ、学びを深めることができた。

2 授業力の向上を目指した研修

(1) 支援型訪問研修における学力向上協議会

支援型訪問研修では、「思考力・判断力・表現力を育成するための手立て」について協議を行った。授業の具体的な場面と結び付けながら、「自分の考えをもち、分かりやすく表現するために」「互いに関わり合いながら、学びを深めるために」という2つの観点について有効な「教師の手法」と「ツール」をそれぞれ出し合い、まとめた。

(2) 互見授業

全学年の担任が研究授業を行い、学力向上協議会で出し合った内容を生かしたり検証したりした。フリーカード法による協議会では、「ねらいを明確にした授業構想と課題設定の工夫」「考えを関わらせ、学び合う学習過程の工夫」「学習の成果を確認する評価の工夫」の3つの視点についての成果と課題を明らかにしていった。

(3) 学力向上研修会

上越教育大学大学院学校教育研究科教授の松沢要一先生をお招きし、年2回の公開研修会を開催した。6月には4学年、11月には1学年の研究授業を行った。授業力向上を目指して「自分の考えを表現し、互いに関わり合いながら学びを深める授業づくり」をテーマとして協議をしたり、具体的な授業場面を基にした「数学的な見方・考え方」についての松沢先生の講話を聴いたりして、研修を深めることができた。

自分の考えをもち、分かりやすく表現するために			
教師の手法	既習事項の振り返り・確認 ・穴埋め式の問いにすることで、短く簡潔に行うことができる。	課題の説明 ・課題の意図を理解することで、活動の見通し・予想をもち、「解決しよう」「できそうだ」と意欲を高めることができる。	学習形態の工夫 ・課題解決の見自分の考えを取り入れることができる。 ・全体の場を自分で発表するたをもつことが目的をはっきりとペア・トリオ・全体での活動を効果的られる。 ・目的に応じて構成を工夫す
	既習事項の提示 ・前時までの学習を常に確認し、課題解決に生かすことができる。	課題解決の仕方の例示 ・見通しをもって安心して取り組むことができる。	
	学習内容(ゴール)の提示 ・見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができる。	話型の提示 ・分かりやすい説明の仕方を示したり、話す	
	課題の精選		

【学力向上協議会のまとめ(一部抜粋)】

学力向上の土台となる自己有用感・自己肯定感の向上を目指した取組

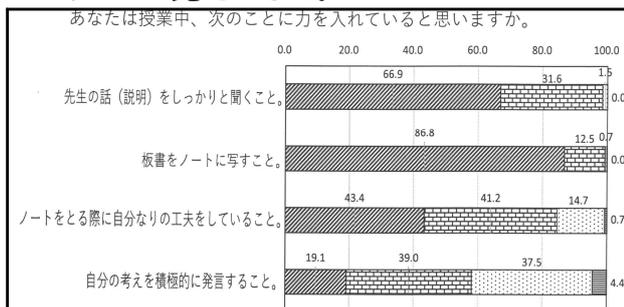
黒部市立桜井中学校

Ⅰ 対話を通じた多様な考えを認め合う小集団学習の充実

(1) 生徒の実態把握

学習に関するアンケートで、生徒が授業中に「1何に力を入れて授業に取り組んでいるのか」や「2教師の授業に何を求めているのか」を調査した。

その結果、生徒は1について、「先生の話(説明)をしっかりと聞くこと」や「板書をノートに写すこと」、「練習問題に集中して取り組むこと」などの項目を重視していた。2については、「先生の説明の分かりやすさ」や「練習問題やワークをする時間を十分に確保すること」を望んでいることが分かった。生徒の感覚として、授業は「一人でやるもの」という意識が強いということが見えてきた。



〔学習に関するアンケート結果の一部〕

このアンケートの結果を基に、「教師がイメージする『生徒が満足感をもつ授業』に必要な要素」を考える研修会を実施した。研修会では、「満足感をもつ授業」についての生徒と教師の認識の違いがあることが明らかになった。生徒一人一人を授業の中でどのように関わらせ、学びを深化・発展させていくか、知識伝達型授業から協働自学型授業への転換が課題となった。



(2) 生徒が満足感をもつ授業の取組と授業アンケート

研修会を受け、「生徒が満足感をもつための授業の取組」を教師が工夫し、単元を決めて、授業実践をした。

単元終了後には、取組がどうだったか授業アンケートを行い、実践の効果を確認し検証する。

〔Ⅱ〕授業を振り返ろう (A 当てはまる B どちらかといえば当てはまる C どちらかといえば当てはまらない D 当てはまらない)

質問項目	A	B	C	D
1 授業は毎時間、学習課題「今日の課題」が提示されている。				
2 授業では、ペア学習・グループ学習等でお互いの考えを出し合う時間がある。				
3 授業の最後には、その日の授業で学んだことを振り返ったり、まとめを書いたりする時間がある。				
4-① 先生の説明や板書が分かりやすかった。				
4-② ペア学習・グループ学習等により、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた。				
4-③ 練習内容を工夫したり、試合に生かしたりすることができた。				
5-① 先生の話や授業の雰囲気楽しかった。				
5-② ペア学習・グループ学習等、友達と交流しながらの学習が楽しかった。				
5-③ 操作を伴った学習活動(図形をかいたり、補助線を自分でどのように引くか考えたりする活動)は、楽しかった。				

授業について、意見や要望があれば書いてください。

※このアンケートは授業の内容をよくするために使います。成績にはまったく関係ありませんので、思ったことを素直に書いてください。

〔授業アンケート(数学科の例)〕

2 自己肯定感の向上を目指した、個や集団を認める場の設定

(1) 道徳科の授業を通じた生徒相互の温かい人間関係の形成

5月に金沢工業大学教授白木みどり先生に「学力向上に繋がる思考経験と議論のステージ」という演題で、特別の教科道徳の「考え、議論する道徳」における授業展開や議論のさせ方、話し合いでの教師の役割等について教えていただいた。

5月の講演会を踏まえて、担任がそれぞれ授業実践を行った。また、10月には白木みどり先生を講師としてお招きし、道徳科の授業を参観していただき、これまでの道徳科の授業の進め方についての講評をいただいた。

(2) 6月と11月のi-check調査

生徒一人一人の学習意欲や学級への満足度から集団の様子を確認し、集団づくりや個別の支援について計画し、実践した。11月調査では、実践の効果を確認する。

(3) 人間関係づくりエクササイズの実施

月1回、朝学活に学級単位で人間関係づくりエクササイズを実施し、学級の仲間と関わる機会や互いの仲を深める機会を意図的に設けた。



全国学力・学習状況調査の結果（黒部市）



1 全体的な傾向

- 小・中学校ともに、全国の平均正答率を上回っている。
- 小学校では、国語、算数ともに、昨年度のA、B両調査を総合的に捉えて比較すると、全国との差は昨年度とほぼ同程度である。
- 市内各小学校の平均正答率の開きは、昨年度のA、B両調査を総合的に捉えて比較すると、昨年度と比較し、やや小さくなった。
- 中学校では、国語、数学ともに、昨年度のA、B両調査を総合的に捉えて比較すると、全国との差は昨年度とほぼ同程度である。
- 今年度初めて実施された中学校英語の調査では、「話すこと」を含め、全国の平均正答率を大きく上回った。
- ▲市内各中学校の平均正答率の開きは、昨年度のA、B両調査を総合的に捉えて比較すると、昨年度と比較し、やや大きくなった。

2 各教科の結果

〈 小学校 国語 〉

- 全ての領域（話す・聞く、書く、読む、言語文化）で、全国平均正答率を上回っている。
- 調べたことを報告する文章の中で、図表やグラフなどを用いた目的を捉えることができている。
- 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問を工夫することができている。
- ▲目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られる。

〈 小学校 算数 〉

- 棒グラフを読み取り、除法の計算を正しく使いながら倍数を求めることができている。
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができている。
- ▲示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述することに課題が見られる。

〈 中学校 国語 〉

- 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことができている。
- 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することができている。
- ▲投稿先の敬称や住所の書き方など、封筒の書き方を理解して書くことに課題が見られる。

〈 中学校 数学 〉

- 反比例の表を読み取り、 x と y の関係を式で表すことができている。
- 資料を整理した表から、最頻値を読み取ることができている。
- ▲電気代などの生活事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。

〈 中学校 英語 〉

- まとまりのある文章を読んで話のあらすじを理解することができている。
- 2つの英文を理解し、適切な接続詞を用いることができている。
- 自分の将来の夢ややってみたいことなど、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができている。（話すこと）
- ▲メッセージの内容を聞いて把握し、適切な内容で書くことに課題がある。
- ▲聞いて把握した内容について、会話が続くように即興で質問をするなどのやり取りをすることに課題がある。（話すこと）

3 今年度から始まった「中学校 英語」調査から学ぶ



中学校において、初めて英語調査が実施されました。問題数は5問と少ないものの、コンピュータに向かって話し、録音するという形態の「話すこと」調査も実施されました。

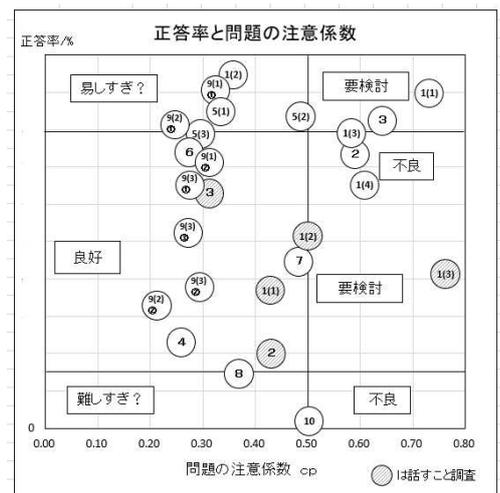
当日のコンピュータによる録音が確実にミスなく完了するまで、担当された先生方は大変心配だったと思います。また、本調査実施までの間には、予備調査の実施や、学級ごとの移動を含めたタイムスケジュールの作成等、事前準備もあり、大変だったと思います。本当にお疲れ様でした。小学校5・6年生の外国語科も次年度から教科化され、やがては小学校でも英語の調査が行われる可能性も否定できません。

さて、黒部市では小学校1年生から英会話科に取り組んでおり、10月～11月にかけて市内全小中学校で公開授業も行われました。それらの取組の甲斐あってか、前述の通り、今回の「中学校英語」調査の平均正答率は全国よりも高い結果となりました。

しかしながら、今回の調査結果だけで「黒部市の子供たちは英語力が高い」と結論付けてよいものでしょうか。国語や算数・数学の調査は平成20年から継続されています。標準偏差を加味した標準化得点からは、どの年度においても、調査や対象となる子供たちが異なっても、黒部市全体の結果は全国と比較して良好です。また、調査も年々改良され、より確からしく分析ができるようになってきています。さて、英語調査はどうだったのでしょうか。

(1) 英語調査問題の解釈

今回の英語調査問題の全設問は、黒部市全体のsp分析による問題注意係数(cp)と正答率から、右図のように類型化されます。(「通過率と問題の注意係数の解釈基準(佐藤, 1998)」による)問題注意係数0.5を境界として分けると、「要検討」や「不良」などに該当する設問も複数あります。(n=349, 正答率による標準偏差は17.7)また、正答率は全国の値で91.3%~1.9%と設問による差が大きく、調査の信頼性についても今後改善されていくものと考えます。



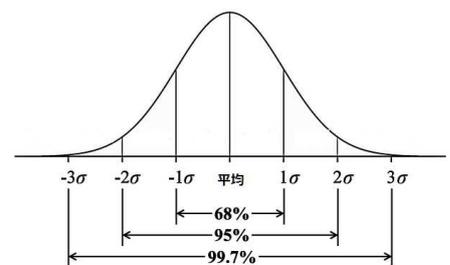
通過率と問題の注意係数の解釈基準に基づく英語調査の解釈

したがって、今回の調査結果は、今年度の中学3年生が受けた、初めて作られた英語調査の結果であり、「黒部市の子供たちの英語力」を適切に表しているとは明言できないかもしれません。今後複数回の英語調査が実施される中で「黒部市の子供たちの英語力」がより確からしく判断されていくものと考えます。

(2) テストづくりの目安となる平均点や標準偏差について

初めて中間考査を作成するとき、ある先輩教員から「平均点は65点、標準偏差(σ シグマ)は20点以下が目安だ!」と言われ、それを信じて作成していました。

確かに、 σ が20より大きいときはヒストグラムの山は低くなり、 σ が20より小さいときは正規分布に近づきます。正規分布は平均値と最頻値と中央値(小学校第6学年算数で学習)の3つが一致する一般的な分布です。このとき、右図のような68-95-99.7ルールが存在します。確かに平均点が65点で σ が18



ぐらいであれば100点までの間に被験者のほとんどが入ります。大変大雑把かもしれませんが、信頼性を確認できるよい目安であったと改めて思います。

4 児童生徒質問紙調査から考えられること

小学校では全58問、中学校では全69問の質問紙調査が行われました。黒部市の結果を富山県、全国と比較すると、小学校で9、中学校で12の質問において有意差が認められました(t 検定 $p=0.05$)。また、富山県や全国との有意差は認められませんが、過去の結果と比較すると、変化が認められる項目もありました。それらの結果についてお知らせします。

(1) 全国や富山県の結果との間に有意差が認められるもの

右図1は「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」(調査No,6)についてのグラフです。小学校調査では昨年度よりも肯定的な意見が増え、富山県や全国と比較して有意差が認められます。この質問と学力調査との相関は認められませんでした。教師からのプラスの声かけは子供たちの自尊心につながっていきます。全国や富山県の結果を参考にしながら、子供たちに対して積極的に働きかけていきたいものです。

また、右図2は「学校に行くのは楽しいと思いますか」(調査No,12)についてのグラフです。先の結果と同様に、小学校調査では富山県、全国との間に有意差が認められますが、中学校では認められません。

しかし、中学校調査では、学力調査の国語と数学の結果との間に弱い相関が見られます($r=0.3$)。つまりは、得点が高い生徒ほど、「学校に行くのは楽しい」と答えている傾向があるということです。中学校では、小学校以上に成績の要因が学校に対する肯定感に影響を与えていると推察されます。

(2) 過去の結果との間に変化が認められるもの

右図3は「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」(調査No,7)についてのグラフです。昨年度は出題されていませんが、平成29年度の結果(Δ)と比較すると、全国、富山県、黒部市も小学校、中学校共に肯定的な意見が10%程度増加しています。ここ2年間で、全国的に児童生徒の状況に応じて丁寧な指導が行われていることが推察されます。この結果と学力調査の結果との相関は小学校、中学校共に見られませんでした。

(3) 質問紙調査の解釈

質問の中には回答に偏りが見られるものもあり、「いじめ」についての質問では、平均値3.8、標準偏差0.5、計4.3となり、天井(床)効果を現します。これは、統計的な分析としては、あまり有効ではありません。学校評価やi-checkなど、たくさんのアンケートが学校で実施されていますが、妥当性と信頼性を確認しながら実践に結び付けていきたいものです。

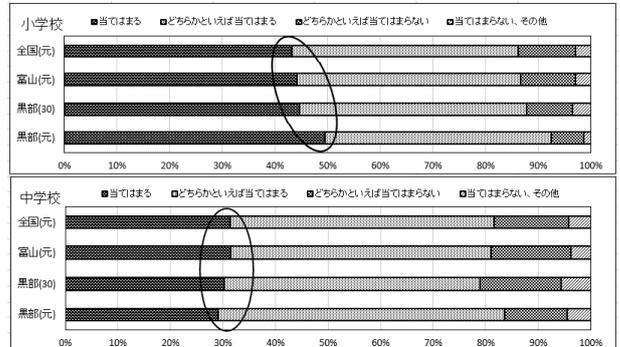


図1:No,6「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

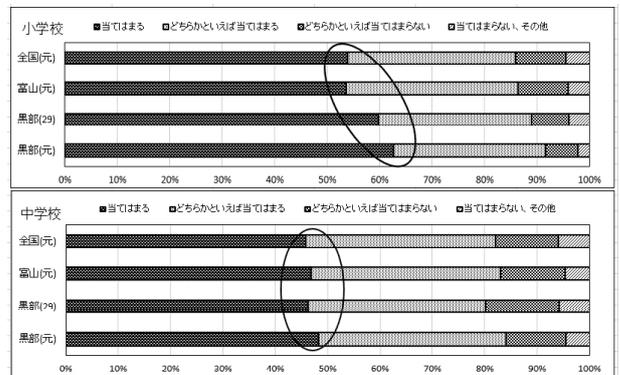


図2:No,12「学校に行くのは楽しいと思いますか」

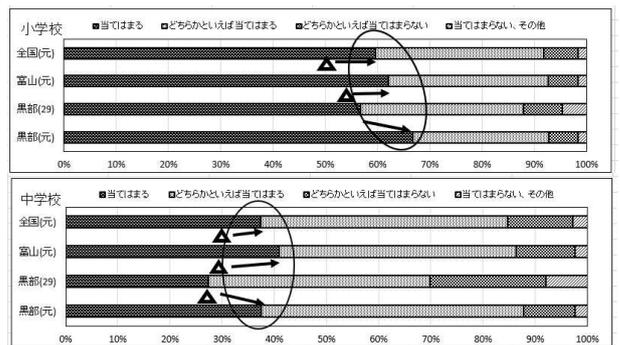


図2:No,12「生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」

令和元年度姉妹都市交流研修(メーコン・ビブ郡受入)について

黒部市教育委員会学校教育課 主事 鎌田 真実



10月4日～15日、姉妹都市交流研修事業の一環で、アメリカ合衆国ジョージア州メーコン・ビブ郡から高校生14名、引率4名が黒部市(10日～東京)を訪問されました。当初の帰国便が台風の影響で欠航し、急遽東京で3泊延長というハプニングもありましたが、最終日にいただいた手紙の中には、“Tokyo was exciting, but it paled in comparison to Kurobe’s beauty and gentle spirit. (中略)I will cherish this time always, and hold each of you in my heart forever more.”と書かれており、私たち以上に本市の魅力を感じとっていただいたように思います。



日中の研修のメインは学校訪問です。生地小で「しばんば」を一緒に踊ったり、桜井中で部活動に参加したり、英会話科の授業にも参加してもらったりして、アメリカと日本の文化を紹介し合いました。最終日に、メーコン・ビブ郡の生徒に黒部市で一番思い出に残った場所を聞くと、ほとんどの生徒が迷わず学校訪問で交流できたことだと答えてくれました。本市の生徒にとっても年齢の近いネイティブスピーカーと英語を話す機会や、言葉がうまく通じなくてもジェスチャー等で意思疎通できた経験は、英語を学ぶ上で大変貴重です。この交流をきっかけに、英語や姉妹都市により興味をもち、派遣生としてメーコン・ビブ郡に行きたいという生徒の声も届いています。



この事業のもう一つのメインは、ホームステイによる交流です。彼らは、昨年メーコン・ビブ郡へ訪れた派遣生のご家庭へ4泊ホームステイしました。ホームステイは、ホストファミリーに少なからず負担をかけることになるため、ホストファミリーの皆様は、大変不安に感じておられましたが、言葉の壁を越え、4泊という短い期間の中で驚くほど深い絆を作ります。生徒間の交流ではありますが、訪問と受入を重ねるごとに、交流の輪が少しずつ広がっており、両市の関係強化につながっている大事な取組となっています。彼らの帰国後もSNS等でやり取りを継続しているようで、今回限りではなくこの先も続くことを期待しています。



最後に、メーコン・ビブ郡からの訪問は今回で5回目となりましたが、本事業に携わってくださった各所の皆様のご協力により継続することができております。この場をお借りして感謝申し上げます。



第14回 黒部市小・中学校科学作品展 最優秀賞



今年度は、市内各小中学校から優秀作品75点が集まり、その中から以下の8作品が最優秀賞に選ばれました。さらに厳選された5作品が県出品となり、第78回富山県科学展覧会で賞を受けました。(◆は県での受賞名)

- | | |
|---|--|
| ○あさがおくらべ
◆ 創意くふう賞 桜井小1年 安田 理彩 | ○フライングディスクを遠くに飛ばしたい!パート2
中央小6年 木下 雄斗 |
| ○モリアオガエルのかんさつパートII
◆ 研究努力賞 若栗小2年 中西 瑠煌斗 | ○水の違い~硬水と軟水を比較しよう~
◆ 研究努力賞 桜井中2年 本堂 春来 |
| ○もう一度チャレンジ
ながーいシャボン玉をつくろう
桜井小4年 安田 琥太郎 | ○氷のとけ方調べ
宇奈月中3年 安達 一生 |
| ○紙は力持ち
◆ 研究努力賞 たかせ6年 八木 朝 | ○オジギソウはなぜ動く?
◆ 創意くふう賞 高志野中3年 岸 渚紗 |

第14回 黒部市少年少女発明くふう展 優秀賞



小学校140作品、中学校19作品の出品となり、今年度も多くの作品が出品されました。その中から 50作品が優秀賞となり、県に出品されました。第57回富山県発明とくふう展では以下の22作品が受賞しました。今年度も富山県知事賞に桜井中学校の内呂勇揮さんの「展示品保護装置」が、日本弁理士会会長奨励賞に石田小学校の高慶一希さんの「水圧式 ロボットアーム」が選ばれるなど、昨年度と同様素晴らしい結果となりました。(●は県での受賞名)

- | | |
|--|---|
| ○展示品保護装置
● 富山県知事賞 桜井中3年 内呂 勇揮 | ○めぐすり めいちゅう マシーン
● 奨励賞 生地小1年 一井 悠人 |
| ○水圧式 ロボットアーム
● 日本弁理士会会長奨励賞 石田小6年 高慶 一希 | ○かさおける
● 奨励賞 村椿小1年 高村 隼輔 |
| ○あつい日もすずしくて休めるリュックエコバッグ
● 黒部市長賞 生地小2年 近江 ほのか | ○一目でわかる 賞味期限
● 奨励賞 石田小2年 中野 結 |
| ○プッシュハンガー
● 北日本新聞社長賞 村椿小5年 大上戸 結音 | ○スーパーハエたたき
● 奨励賞 宇奈月小2年 金井 章太郎 |
| ○仲よし 3等分器
● 優秀賞 生地小1年 柴 夢乃 | ○やさしく キャッチ
● 奨励賞 荻生小3年 長矢 空璃 |
| ○ま夜中のひなんまくら
● 優秀賞 桜井小3年 清水 陽介 | ○大根おろしホルダー
● 奨励賞 宇奈月小4年 清河 そよ |
| ○筆☆ウォッシャー!!
● 優秀賞 たかせ小4年 當田 莉沙 | ○タオルほしハンガー
● 奨励賞 たかせ小5年 谷嶋 清太 |
| ○お米とぎ器
● 優秀賞 たかせ小6年 堀田 晃生 | ○レースカーテン めくれ防止ストッパー
● 奨励賞 石田小5年 吉松 美桜 |
| ○歯みがき水時計タイマー
● 優秀賞 若栗小6年 角丸 楓人 | ○水がきれいるまな板
● 奨励賞 若栗小5年 谷 帆高 |
| ○筆の洗浄・脱水装置
● 優秀賞 鷹施中2年 永田 大和 | ○ソーラー草取り機
● 奨励賞 桜井小6年 内呂 幸慈 |
| ○効率の良い文房具入れ3 (画鋏編)
● 優秀賞 桜井中3年 野口 真奈美 | ○後ろも見えるんです!
● 奨励賞 桜井中1年 山本 圭汰 |

★原稿のご協力ありがとうございました。内容に関するご意見、ご質問等については教育センターまでお寄せください。